

肝癌化学療法に対する遺伝子治療併用の基礎的研究

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2021-11-15 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: Yamashita, Tatusya メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24517/00060950

This work is licensed under a Creative Commons
Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0
International License.



肝癌化学療法に対する遺伝子治療併用の基礎的研究

Research Project

All

Project/Area Number

18790451

Research Category

Grant-in-Aid for Young Scientists (B)

Allocation Type

Single-year Grants

Research Field

Gastroenterology

Research Institution

Kanazawa University

Principal Investigator

山下 竜也 Kanazawa University, 医学部附属病院, 助教 (30334783)

Project Period (FY)

2006 – 2007

Project Status

Completed (Fiscal Year 2007)

Budget Amount *help

¥3,300,000 (Direct Cost: ¥3,300,000)
Fiscal Year 2007: ¥1,800,000 (Direct Cost: ¥1,800,000)
Fiscal Year 2006: ¥1,500,000 (Direct Cost: ¥1,500,000)

Keywords

アデノウイルスベクター / p53 / IL-12 / マウス樹状細胞 / 肝癌培養細胞 / 5-FU

Research Abstract

Huh7肝癌培養細胞株を用いたIn vitroの系で,CAGプロモーター下にp53を発現するAxCA.p53を用いてp53の5-FUの抗腫瘍作用の増強効果を検討した.p53を有さないAxCA. nullをコントロールとして,MOI 3,10,30でこれらのアデノウイルス感染させた後,培養上清中に5-FUを12.5μmol/L,50μmol/Lで添加し,48時間後の増殖阻止率を検討した.MOI10では,コントロールと比較して32%の増殖抑制効果の差を示したものの,有意差を認めなかった.またMOI30では,74%の増殖抑制効果の差を認め有意差を示した.このことよりp53発現ウイルスベクターにて5-FUの抗腫瘍作用の増強効果を確認できたものもMOIから検討すると現実的ではなく,さらに発現系などの改善が必要であると考えられた.

またCMVプロモーター下にマウスIL-12(mIL-12)を発現する組換え型アデノウイルスAd.mIL-12を用い,Huh7肝癌培養細胞を,ヌードマウスに移植し,In vivoで抗腫瘍効果の検討した.AxCA.nullをコントロールとしてAd.mIL-12の直接投与を検討した.腫瘍周囲の注入場所により,抗腫瘍効果が安定せず,手技の安定に時間がかかった.Ad.mIL-12を用いても抗腫瘍作用の増強はコントロールに比較し,+11±8%であり,コントロールを有意な差を認めなかった.また組織学的には,CD8陽性細胞の集積はみられなかった.このことより,IL-12の効果を得ためには,マウス樹状細胞にIL-12を導入し,それを腫瘍周囲に注入するなどの工夫が必要と判断し,マウス樹状細胞にAd.mIL-12を感染させ,検討中である.

Report (2 results)

2007 Annual Research Report

2006 Annual Research Report

URL: <https://kaken.nii.ac.jp/grant/KAKENHI-PROJECT-18790451/>

Published: 2006-03-31 Modified: 2016-04-21